

まつもと じゅん  
**松本純**

中区・磯子区・金沢区  
**まちかど  
政治瓦版**

平成16年12月1日号  
発行 かながわ1区支部  
編集長 平木 茂



12月号  
2004年  
No.22

問合せ●横浜市中区野毛町2-65 電話045-241-7800 FAX045-253-0585 ホームページ [www.jun.or.jp](http://www.jun.or.jp)

## 「三位一体の改革」がいよいよスタートします！ 神奈川県や横浜市は「自治体間競争」を勝ち抜けるか？

長い議論の割には、「三位一体の改革って、わたしたちに関係あるの？」という声が多いのも事実です。実はおおいにあるのです。県や市をがんじがらめにしてきた国の関与を減らし、地域の実情にあった自立的な地方行政を展開できるようにするのが、この改革の目的だからです。

「三位一体の改革」とは、① 使い道を限定された国庫補助負担金を減らす ② 県や市が自由に使える税源を県や市に移譲する ③ 地方交付税のあり方を見直す—ことをいいます。そのために国では平成18年度までに、3兆円規模の税源移譲を行うことにしています。

地方自治体は、その財源をもとに、より自由度の高い行政を展開できるわけですから、住民の要望に沿うために必死に知恵を絞っている県や市にとっては、行政サービスの質を高める大きなチャンスです。

一方、不自由ながらも、国の指導と補助金で近隣の自治体と横並びの行政を行ってきた県や市には、強い自立が求められることとなります。

「三位一体の改革」で今までよりも重い責任を負うことになるのは、国ではなく地方自治体なのです。その結果、自治体と自治体との間で今後、あらゆる分野で格差が出てくることも予想されます。「競争原理」、そう、きびしい競争によって、よりよい商品やサービスを生み出してきた民間企業の創意と工夫が、今度は地方自治体に求められるのです。

さて、神奈川県や横浜市は、住民の要望や期待に沿う行政を期待しているのでしょうか。「三位一体の改革」の実施で、どう変わるのでしょうか？ 県民、市民の皆さんにもまた、それを監視する責任が生まれます。「国」「地方自治体」「住民」、その三者がともに変わる、それがほんとうの「三位一体の改革」ではないでしょうか。



◀三位一体をテーマに熱い議論が交わされました

### 「新しい国づくり」麻生太郎総務大臣が講演

松本純女性連合後援会「すみれ会」主催の「タウンミーティング」が11月22日、横浜プリンスホテルで開かれました。会場は1,200人の出席者で満員の盛況。講演した麻生大臣は「今はアメリカ一極時代。それならアメリカとうまくつきあわなければいけない。小泉総理はうまくやっている」と小泉外交を高く評価。自ら陣頭指揮をとって進めている「三位一体の改革」については、「地方にできることは地方に、というのが時の流れだ。（反対する人から）麻生太郎を筆頭に松本純もたたかかれているが、大きく発想転換しなけばならない時期にきている」と、改革の推進を強調しました。また、会場では、自民党神奈川県連のサポートを得て、新潟県中越地震被災者への義援金が呼びかけられ、14万560円が集まりました。

## 松本議員の国会レポート⑬

平成16年

【11月2日(火)】

- 午前8時 ●社会保障制度調査会介護委員会
- 午前8時30分 ●委員会答弁について確認・説明
- 午前10時 ●参議院総務委員会／答弁
- 午後0時20分 ●参議院文部科学委員会／答弁
- 午後1時 ●本会議
- 午後3時30分 ●参議院内閣委員会／答弁

【11月8日(月)】

- 午前7時 ●早朝駅頭演説会(金沢文庫駅)
- 午前9時 ●第19回全国消防操法大会
- 午前10時 ●県理容生活衛生同業組合リーダー養成講座
- 午後3時 ●新日本石油根岸精油所長面談
- 午後5時 ●社会保障のあり方に関する懇談会

【11月16日(火)】

- 午前8時 ●厚生労働部会
- 午前8時30分 ●総務部会地方税財政改革プロジェクトチーム合同会議
- 午前10時 ●参議院厚生労働委員会／答弁
- 午前11時5分 ●総務委員会
- 正午 ●大臣政務官会議
- 午後0時45分 ●代議士会
- 午後1時 ●本会議
- 午後1時45分 ●熊本・相模原・姫路各市長要望
- 午後4時 ●国土交通省打ち合わせ

総務大臣の所信に対する委員会の質疑には、副大臣、政務官全員が出席しなければなりません。政務官として答弁することもあります。この日は、私の委員会答弁3連発の予定。十分に準備して、はりきって委員会へ。まず参議院総務委員会は、他の質問に時間がかかり、残念ながら私の出番なし。が、次の文部科学委員会では、三位一体の改革などについて、内閣委員会では新潟県中越地震や台風被害について答弁しました。

横浜国際総合競技場で開かれた大会では、開会式で小泉総理大臣の代理として、全国47都道府県の代表チームにエールを送りました。神奈川県代表は、磯子消防団第9分団。われらの代表は、小型ポンプ操法の部に出場し、みごと13位敢闘賞に入賞しました。今年は台風、新潟県中越地震と大災害が相次ぎ、全国で消防団の皆さんにご苦労いただきました。競技を見ながら、心から感謝の気持ちをおくりました。



▲見事！敢闘賞に輝いた神奈川県代表・磯子消防団第9分団の皆さん



▲市町村合併をテーマにした総務省推薦の映画「ヒナゴン」主役の伊原剛志さんと

「平成の大合併」が全国で進んでいます。市町村合併は「大きいことはいいこと」だから行うものではありません。住民の多様化する行政サービスのニーズに的確に応えるため、特に高齢社会に対応するためには、自治体の財政を強化する必要があります。県内では相模原市を中心とした合併の動きがあり、「施行後に人口70万人程度が見込めれば、政令指定都市に昇格できる特別支援策の継続を」という要望を受けました。

## 永田町日記 「野毛大道芸」「磯子まつり」から心温まる義援金

相次ぐ大型台風被害、新潟県中越地震と、今年は大きな災害が相次ぎました。私が大臣政務官を務める総務省は、消防を掌握していますから、その対策には大きな責任を持っていますが、今回の大地震で、心温まる思いをしたのは、全国から被災地に集まったボランティアの皆さんの活躍、そして寄せられた義援金でした。私の事務所がある野毛では、10月30日と31日に「第29回野毛大道芸」が開かれましたが、会場に設置した募金箱への観客の皆さんの寄付や参加したパフォーマーの皆さんから寄せていただいた投げ銭の一部など、計24万6440円を神奈川新聞厚生文化事業団を通じて新潟の被災地に送りました。また自民党神奈川県連磯子区連合支部でも、恒例の「磯子まつり」で募金活動を行ったところ、34万5860円が集まったということです。皆さんの温かい気持ちに、災害対策の強化を改めて肝に銘じました。(純)



▲野毛大道芸にて